水戸あれこれ

みとで「彰往考来」実践中！

昨年6月に当地に着任しました。生活の本拠（東京）を離れての生活には苦労もありますが、それ以上に新たな土地で経験できることへの期待には大きなものがあります。水戸について、以前は「三名園の一つと習った偕楽園には機会があれば一回行ってみたい」とか、「水戸室内管弦楽団を生で聴いてみたい」と思っていた程度でしたが、今回初めて住んでみて1年弱、既にこの地の大ファンになっています。

なぜ自分がそのような気持ちになっているのかと考えてみると、都市機能と豊かな自然のほど良いバランスがあると思います。都市機能という面では、日常生活に困ることは全くないほか、文化・スポーツも身近で手軽に楽しむことができます（実際、水戸芸術館でのコンサートと、茨城ロボッツ、水戸ホーリーホックの試合は、既に楽しみました！）。時折東京に戻る際の交通も便利です。それでいて、少し高いところに上ると視界を遮るものの少ない展望が得られ、広い空、多くの緑、川や遠くに見える山々といった自然に心を癒されます。川沿いや千波湖のほとりでのジョギングでも、心身がリフレッシュされます。さらに、水戸を拠点に県内の自然豊かな海や山へも簡単に足を延ばすことができます。

また、歴史から多くを学ぶことができる環境も大きな魅力です。これまで水戸藩の歴史について学ぶ機会を持てていなかったのですが、当地に着任して代表的な観光スポットである偕楽園や弘道館に加え、あちらこちらにある藩ゆかりの場所を訪れたり、関連する本を読んだりして、光圀公・斉昭公のスケールの大きさや、水戸藩が幕末の政治にその思想と行動とで与えた影響の大きさを感じています。その歴史は、壮絶な藩内抗争など、水戸藩の人々にとって必ずしも幸福なものではなかったでしょう（回天館などを訪れると特に感じます）。しかし、領民を大切にする為政者の姿勢（光圀公の救民妙薬や斉昭公の農人形）、藩や国の将来のためにスケールの大きな構想を立て、困難に直面しても粘り強く実行する力（斉昭公が行った諸改革など）など、現代の我々が次々と発生する難しい課題（感染症、地球温暖化、世界平和への脅威など）と対峙していくうえでも、大切にしなければならないことやヒントとなることが、水戸藩の歴史には散りばめられているように思います。その歴史を当地ほど多面的・立体的に学ぶことができる環境は、他にはありません。光圀公は、「彰往考来（過去をあきらかにして未来を考える）」という言葉から、大日本史を編纂する史局を「彰考館」と名付けたそうですが、それをまさに実践しています！

このように大ファンとなった当地に少しでも貢献できるよう、仕事面では日銀事務所長の立場から微力ながら取り組んでおります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

▲旧水戸彰考館跡

日本銀行水戸事務所
所　長　上野　　淳